

## 第60話 江戸中期の金貨・諸営業 中山町 歴史散策

江戸中期における柏倉家の経営全体の動きを知る資料として、享保11年(1726)以後ほぼ毎年作成した「年々勘定帳(大晦日勘定)」があります。

この勘定帳は、(1)村々貸し、(2)質地・質物身代金及び特産物仕入代、(3)大晦日有金、(4)総計に大別されますが、同家の経営の諸側面と全体の変遷を知る上では基本的な資料となっています。

享保11年(1726)から宝暦4年(1754)にわたる約30年間の村々貸しについてみると、居村である岡村のほか長崎・土橋・柳沢・金沢・小塩・平塩・深沢・伏熊・達磨寺・北目など周辺の各村が対象となっています。その方法としては、「直貸し」と「取次ぎ貸し」があり、取次ぎ貸しは村別または方面別に柏倉家の金貸しを受け持つ世話人を通じて行う方法でした。

総計に対する買物金等の比率は、享保15、16年までは村々貸しの60%台でありましたが、その後一時期は、村々貸しの金額が総貸金の70%、80%の割合を取り戻していま

柏倉家の年末会計

年次	(1)村々貸し	(2)質地、身代、買物	(3)有金((2)の内)	(4)総計
享保11年(1726)	481両	301両	83両	782両
享保20年(1735)	344両	222両	21両	566両
元文3年(1738)	501両	526両	70両	1027両
延享2年(1745)	900両	202両	49両	1102両
宝暦4年(1754)	982両	814両		1796両

資料：各年「年々勘定帳」(大晦日勘定)

す。18世紀前期の変化の中で、柏倉家は商人化に向かうのではなく、零細な村々貸しを中心とする貸金業と豪農としての土地経営にその基盤を求めたことが知られています。

※添付表 柏倉家の年末会計  
中山町史 中巻 第7章 第1節 近世豪農の形成

## さむ~い冬も笑顔あふれる子どもたち

今年は近年稀に見る豪雪。2月上旬には町内各所で1メートルを超える積雪が確認されました。町では豪雪対策本部を設置し、公共交通機関の運休や建物の損壊など数多くの被害の対応に追われました。

そんな中でも、中山町の子どもたちは元気いっぱい。この冬も、様々な行事に参加してたくさんの思い出を作りました。

### 力を合わせてペタンペタン



みんなでついたお餅は  
やわらかくておいしいよー!



力を合わせて「エイッ」

2月1日、町農業委員会の企画する豊作祈願の餅つきがなかやま保育園で行われ、年長児たちが参加しました。はじめに、農業委員の方がお手本を披露。園児たちは杵が振り下ろされるたびに歓声をあげ、興味津々の様子で見学し、その後実際に体験しました。杵が重く、苦戦しているようでしたが、農業委員の方と力を合わせてお餅を完成させました。

ついたお餅は納豆餅にして振舞われました。園児たちはつきたてのやわらかいお餅を嬉しそうに味わっていました。

### 勇気を出して「鬼はそと！」



なかやま保育園



鬼さんこわいー

鬼さんのあまりの迫力に思わず泣き出してしまおう子さんも(子育て支援センター)

お試しくださいー!変わったお餅レシピ  
保育園のお友達が、変わったお餅の食べ方を教えてくれました。「家ではココアをまぶして食べるよ」「納豆餅に粉チーズをかけるとおいしいよ」など、各家庭でおいしく食べる工夫をしているようです。普通のお餅の味に飽きたら、ぜひお試しくださいね。

2月1日に子育て支援センター、3日にはなかやま保育園で節分行事の豆まきが行われました。

なかやま保育園では、金棒をもった赤鬼と青鬼が現れました。鬼を発見するといっせいに駆け寄り、逃げ惑う鬼をめぐって思い切り豆を投げつける園児たち。中には、テレビに出てくるヒーローの必殺技で鬼を追いかけて、にぎやかな節分行事となりました。

最後は子どもたちのパワーに負け、鬼は遠くへ逃げて行きました。

### 上手に滑れるようになりまし



1月7日・22日・29日の3日間、蔵王猿倉で町体育協会主催のスキー教室が開催され、町内の小学生ら9名が参加しました。

初めはよろよろと頼りなく滑っていた参加者の皆さんでしたが、3日間の教室が終わる頃にはバランスをとって自在に方向を変えられるほどに上達。厳しい寒さの中でしたが、インストラクターの指導のもとスキーを楽しみました。

ウインタースポーツは雪国山形ならではの楽しみの一つ。来年も教室に参加し、さらなる上達を目指してほしいものです。

### 身長より高い!? 大きな雪山



近年にない大雪で、なかやま保育園の庭にはたくさんの雪が積もりました。園児たちは風邪をひかないように色とりどりのスキーウェアや長靴を身につけて、ふかふかの雪を踏み固めて迷路を作りました。

力を合わせて雪の迷路作りみんな出られるかな?

また、小学生の通学路には大きな雪の山が現れました。自分の背丈よりも大きな雪山に、児童たちは大喜び。雪とたわむれる姿がところどころで見られました。「早く暖かくなってほしいけど、雪がなくなったら寂しい」と雪解けを惜しむ子どもたちでした。



北小路



読み札が読み上げられるといっせいに走り出し、白い息を吐きながら懸命に札を探す子どもたち。目的の札を見つけると歓声をあげ、雪の上を元気いっぱいに走り回っていました。



### 「あったー!!」 雪の上でカルタ取り

2月5日、今年で25回目となる「なかやま雪中カルタ大会」が開催され、町内の小学生、保護者ら約620名が参加しました。

冬の恒例となったこの行事は、カルタを通してふるさとを理解し、愛する心を育むことを目的に青少年育成町民会議や子ども育成会などが協力して行っているものです。

天気心配されましたが、当日は連日降り続いた大雪が嘘のように青空が広がりました。